

FD 活動の報告

粗 山 洋 介

日本語日本文化教育部門では、平成14年にFD班を設け、以後、現在に至るまで、日本語・入門講義の授業を担当する教員全員でFD活動に取り組んできた。さらに、平成16年には、留学生センターの委員会としてFD委員会を設置し、教員個々の教授能力の向上、授業の改善を目指している。

さて、平成18年度に、新たに、「従来にもまして、FD活動を効果的に行うために、課題・テーマを明確にし、継続的かつ計画的にFD活動を行う」という基本方針を立てた。具体的には、教員各自が19年度から21年度の3年間にわたるFD活動の綿密な計画を立案し、継続的にFD活動を行うというものである。このような基本方針に基づき、教員各自が「FD活動計画書」(A4サイズ、2頁以内)を作成した。

平成19年度、20年度は、上記の活動計画に従って教員各自がFD活動を行った。さらに、各年度とも、各教員が「FD活動中間報告書」(A4サイズ、2頁以内)を執筆した。

今年度(平成21年度)は、上記の計画に基づくFD活動の最終年度であり、教員各自が計画に従ってFD活動を行った。さらに、以下の原則に基づき、各教員が「FD活動最終報告書」(A4サイズ、2頁以内)を執筆した。

「FD活動最終報告書」執筆の原則

1. 18年度に作成した「FD計画書」の21年度分の各項目(「活動の目標・狙い」「実施内容」「実施内容の評価方法」)に対応する形で書く(昨年度、計画を修正した場合はそれに基づく)。
2. 必要があれば、「21年度のまとめ」あるいは「3年間のまとめ」を書く。

なお、各教員の「FD活動最終報告書」を一冊にまとめ、全教員に配布した。各教員の「FD活動最終報告書」のタイトルは以下のとおりである。

1. 初中級文法の効果的な教育を目指して
2. 中上級レベルと上級レベルの聴解授業の改善と教材作成に向けて
3. 初級学習者に対するひらがな教育の改善の最終報告
4. 日本文化論教育の改善に向けて
5. 聴解教育の改善に向けての試み
6. 話しことば教育の中での発音教育の再構築にむけて
7. 課題遂行能力ベースにもとづいた教室活動と評価活動の検討
8. 自立学習を支援する漢字指導の試み
9. 「作文教育」の充実を目指して
10. JDS日本語環境 実態調査
11. 読解教育改善に向けて
12. 初級学習者に対するひらがな教育の改善の最終報告
13. 「まちがえちゃった」からの脱却
14. 5. 項目による学習者同士のフィードバック
15. 「使える会話」の会話教育を目指して 3
16. 50音表を用いた動詞の活用形の導入と定着
17. FD最終報告書
18. 中級後半レベルの聴解の授業における事前準備と学習効果
19. 聴解教育の改善に向けての試み
20. 学生のレポート作成に対する効果的な指導法を探る
21. 50音表を用いた動詞の活用形の導入と定着
22. 会話授業とフィードバック技術の改善に向けて
23. 学習活動と評価を結合した教育
24. 言語学教育の改善に向けて
25. 初級日本語コースの漢字教育